

■演題 2 十二指腸カルチノイドに対する腹腔鏡内視鏡合同手術 (LECS) の経験

代表演者：北川雅浩 先生（大分岡病院 消化器センター外科）

共同演者：[大分岡病院 消化器センター外科] 末松俊洋、佐藤博、荒巻政憲、岡敬二、姫野研三

今回、我々は胆石胆嚢炎を合併する十二指腸カルチノイドに対して腹腔鏡下胆嚢摘出術と共に、内視鏡下に腫瘍をマーキングし腹腔鏡下に十二指腸腫瘍を局所全層切除する腹腔鏡内視鏡合同手術 (LECS) を行った 1 例を経験したので報告する。

症例は 60 歳代の男性。主訴は右季肋部痛。平成 25 年、上部消化管内視鏡検査を施行したところ十二指腸球部に 1 cm 弱の十二指腸粘膜下腫瘍を指摘され、生検にてカルチノイドと診断された。平成 27 年 10 月、右季肋部痛を認め受診、胆石胆嚢炎の診断にて腹腔鏡下胆嚢摘出術を行う方針となった。その際に、十二指腸カルチノイドに対しても治療を行うこととし、LECS による局所全層切除を行った。

術中に内視鏡を行い、十二指腸球部のカルチノイドを確認し、腹腔鏡下に十二指腸漿膜面にマーキングを施行した。内視鏡下に針状メスを用いて、粘膜面より一部切開し、その後は腹腔鏡下にて切除し、欠損部を縫合閉鎖した。

術後は著変なく食事摂取も良好で、第 8 病日に退院した。